

令和元年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	統計学講演会
期 日	令和2年2月5日（水）14時50分～17時00分
目 的	課題研究を進めるにあたり必要な「統計学」を学び、実験計画の立案や実験結果の分析・考察・推論等に活用する。
内 容	統計データの扱い方 統計処理の仕方について
講 師	新潟大学 理学部理学科 自然環境科学プログラム担当 教授 湯川 靖彦 様
対 象	理数科2年生および教員
会 場	本校 AV 教室



参加者の
主な感想

- 研究と統計の全体像が見えたような気がします。せっかくのデータをどのように活用したらよいかもっと具体的に知りたくなりました。
- アンケート調査についてもお聞きすることができてよかったです。
- 科学研究において、再現性のあるデータを取ることが大事であり、ただ、測定して値を得るだけでなく、その値が使えるものなのかどうか、統計学（標準偏差＝ばらつき）を考えることが必要だということがよくわかりました。
- 統計処理の必要性を理解できました。数学では今や必須となりつつあるものなので、今回の講演でいただいたことを今後生徒に還元していきたいと思います。課題研究について、その結果や立派なテーマ設定をしようと苦しむ生徒に、「作法」の大切さを何よりも伝えて行けたらと思います。

参加者の 主な感想	<ul style="list-style-type: none">• 課題研究という形で実験・研究、それをまとめて発表するという活動を行っていますが、なかには、非常に努力をして時間をかけているにもかかわらず、データの取り扱いを疎かにすることで台無しにしてしまう生徒たちもいます。それをクリアさせるのも教師の役割の一つ、今回の講演会をきっかけにあらためてそう考えることができました。ありがとうございました。• 統計誤差ということばを初めて聞きました。「ばらつき」はなくなり、このばらつきの見方で統計がある程度の意味をもつことを知りました。生徒の指導に役立てられるように勉強しようと思いました。• 探究学習の方法、正確な測定値を出す方法は、課題研究にとっても役立ちそうです。資料をとっておき、必要なときに見直しながら指導していきたいと思います。• あらためて、「科学研究の作法」の大切さを実感しました。これまでそれを意識しながら研究が進められてきたか……。スタートに立ち返り、生徒に向き合いたいです。• 統計の活用方法が見えてきました。SSH の事業検証などにも役立てたいと思います。
--------------	---